

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 489
オープンサイエンスの情報基盤—
研究・実験データの保管・共有の推進方策
～ 改竄防止／研究証跡の記録化／開かれた学術情報の活用 ～
ご参画・ご派遣のお願い

本セミナー企画は、KKJ シリーズとして初発となる“研究情報基盤”をテーマとしております。メイン講師の船守 美穂氏には、多大なる企画協力を賜りました。

さて、最近、「オープンサイエンス」という言葉を耳にするようになりました。学術をよりオープンにという純粋な理念が込められている言葉であるものの、その裏には、度重なる研究不正の再発防止や研究再現性の確保、また、公的資金を得ている研究活動への説明責任などが背景要因としてあります。一方で、デジタル時代となって大量のデータがあらゆる分野で取得されるようになり、これらデータを再利用して研究の加速化やイノベーションにつなげることも考えられています。

大学においては、機関として研究データを保存・管理する環境を整備することが、求められるようになってきました。2014年に取りまとめられた研究不正への対応に関するガイドラインとそれに呼応する日本学術会議からの回答は、「研究データ10年保存」の考え方を示し、そのための環境整備を機関の責任として明確にしました。他方、欧米では、研究データを効率的に利用できる環境を整備することが大学の国際競争力につながるという考え方のもと、研究データ管理のための整備を進める大学や国もあります。

日本では、2013年のG8科学大臣会合における公的資金を得た研究データの共有について合意したのち、2015年に内閣府、2016年に日本学術会議からオープンサイエンスの推進に関わる報告書が提出され、そのなかで、高速、安全、柔軟なデータアクセスを可能とする研究データ基盤の整備が提言されています。国立情報学研究所はこれらに基づき、これまで主に文献情報を中心に整備してきた学術情報流通サービスを、研究データにも拡張し、研究データ基盤を2020年度目処に整備・提供予定です。

本セミナーでは、研究データ管理に関わるキーパーソン2名にご出講いただき、オープンサイエンスの国内外の動向および、国内で整備されている研究データ基盤、大学における研究データ管理への取り組み方などについて、先進事例の報告と論展を賜ります。

国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センターからは船守美穂氏に、オープンサイエンスの世界の動向や国内における当該政策のホットな状況、及びNIIと各大学等の連携・協働による研究データ管理体制の実現方策を論展いただきます。船守氏は、長年東京大学でIR担当であったご経験から、大学における研究データ管理の導入についてのご示唆も頂きます。NIIの管理・公開・検索の情報基盤システムの技術面については、込山 悠介氏が説明を担当します。

京都大学情報環境機構 IT 企画室青木学聡氏からは、京都大学における研究データ管理への取り組みの先進事例についてご紹介いただきます。

京都大学は、2016年から研究データ保存サービスをすでに試行的に提供しています。また、学内において生成される研究データを適切に蓄積・共有・公開および長期保管するデータマネジメント環境を調査研究するためのアカデミックデータ・イノベーションユニット（通称「葛ユニット」）が2017年末、京都大学学際融合教育研究センターに設置され、全学的な検討が開始されています。

各大学において、どのようにこの研究データ管理に関わる新しい潮流に対応していけば良いのか。その手がかりとなるセミナーです。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご案内いただけましたら、幸いです。パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/h300821.pdf>